

メルケル細胞癌（めるけるさいぼうがん）

メルケル細胞癌について

メルケル細胞癌は、比較的まれな皮膚がんの一種で、特に高齢者の頭や首の皮膚にできやすい悪性腫瘍です。このがんは「神経内分泌腫瘍」と呼ばれる種類に分類されています。

メルケル細胞癌がどの細胞から発生するのかは完全には解明されていませんが、皮膚の表皮に存在するメルケル細胞が関係していると考えられています。メルケル細胞癌の原因として、紫外線による皮膚のダメージや、メルケル細胞ポリオーマウイルス感染、免疫抑制状態などが考えられています。

症状について

メルケル細胞癌は赤色や紫色の小さな結節（しこり）として皮膚に現れ、徐々に大きくなることがあります。進行すると、リンパ節や他の内臓に転移することがあります。

診断について

診断を確定するためには、皮膚生検による病理組織検査を行います。さらに、必要に応じて表在超音波やMRI、CT、PET-CTなどで腫瘍の広がりや転移の有無を検索します。

治療について

治療は、転移性病変がない場合には手術治療が第一選択になります。十分な余裕をもって、周囲の正常組織ごと切除します。同時にリンパ流を検査することで、腫瘍から最初に流れ着くリンパ節を摘出し、リンパ節転移がないか確認する場合があります（センチネルリンパ節生検）。リンパ節への転移がある場合、リンパ節郭清術と呼ばれる手術でリンパ節群れを一塊に切除することもあります。

手術が困難な場合や、再発リスクが高い場合には放射線治療を行うこともあります。

遠隔転移がある場合には、免疫チェックポイント阻害薬（アベルマブなど）による薬物療法が行われる場合があります。

最近では、がん遺伝子パネル検査を用いることで、患者さんごとに最適な治療法を選択する個別化治療も進められています。

執筆者

- 氏名： 森 章一郎（もり しょういちろう）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科

- 氏名： 奥村 真央（おくむら まお）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科